



## 『経済の流れをどう読み、潮流の変化にどう対応していくか』

税理士法人TACT高井法博会計事務所  
TACTグループ関連十二社代表

税理士 高井 法博

リーマンショック以降、未曾有の垂直直下型世界同時不況に見舞われ、海外依存度

の高かった我が国の経済もまさにつるべ落とし、戦後最悪の景気後退を余儀なくされた。トヨタを始め、日本を代表する超優良企業が軒並み大赤字を出し、徹底したコスト削減等、経営改善に乗り出した。中小

零細企業は大企業からのコスト削減要請と金融・総需要・マインドの三つの収縮の波をもろに受け、売上高が急激に減少し、

中には六割〜七割も稀ではなかった。これに対し、世界各国は巨額な景気刺激策をと

り、またいち早く回復した中国を中心とするアジア向け輸出の増加と相まって、何とか景気は最悪期を脱したとみられる。

上場企業を中心とする優良企業の九割は、最盛期の売上・利益には届かないものの黒字化しており、この三ヶ月決算では十社に十社は過去最高益を出すという。

しかし、大多数の中小零細企業は、外需に直接対応できるだけの経営力や資力もなく、売上の激減から固定費を賄うだけの限界利益を上げることができず、一割が赤字、残り八割が赤字で企業の存続すら危ぶ

まれている。

### 一・日本経済の三つの調整圧力

日本経済は三つの調整圧力にさらされており、第一は設備投資の調整圧力である。設備過剰感は過去最高水準で高止まりしており、回復までには早くも三年はかかるという。第二は雇用の調整圧力である。雇用過剰感も過去最高水準で各企業の労働分配率も異常に高く、非正規社員だけでなく正社員の削減や新卒採用の抑制も顕著となり、個人消費の減少へと連なっている。第三はデフレ圧力で、足元の需給(GDP)：国内総生産)ギャップは六〜七%、三〇〜四〇兆円と言われ、グローバル化・円高・雇用・所得環境の悪化等により、消費者の低価値志向も急速に強まっている。さらに、政府発表による名目三%程度と言

う高めの成長を想定しても、需給ギャップの解消には四年程かかると推察されている。

### 二・経済の潮流の変化をどう見るか？

例えば日本は、一九六八年に旧西ドイツの経済規模を超えて世界第二位の経済大

国となった。その後、日本の名目GDPが五〇〇兆円に乗せたのは一九九六年であった。昨年は四七〇兆円で一九九一年以来の低水準となり、日本経済は「失われた一〇年」どころか二〇年のトンネル真つ只中に入ってしまった、未だ抜け出せないでいる。世界各国が時代の流れに合わせ次々と手を打っている中で、日本は対応できず、

外需依存のゼロ成長の定着でついに今年、中国のGDPが日本を抜くこととなった。このことは人口がけた違いの中国と比べ甘受するしかないが、かつて一人当たりの名目GDPも世界二位であった日本が今や世界一位となりOECD(経済協力開発機構)加盟国のどん尻に近づいている。さらに、人口減少時代四年目に入り、六五

歳以上の高齢人口の割合も四分の一に近づこうとしており、労働力人口は年間一%六〇万人ずつ減少するという『少子高齢化』は世界最速で進む。

### 三・この潮流にどう対応するのか？

高齢化社会の到来は労働力人口の減少となり、人材ビジネス・介護福祉・医療など、この周辺事業には大変な需要があり、ビッグビジネスの大チャンスである。また、地球的規模で見ると人口は爆発的に増え続けており、とりわけアジアは中国二三億五千万人、インド一一億九千万人、インドネシア二億二千万人等、アジアは世界人口の半分三五億人を擁する。とりわけ今回

の世界不況への対応も素早く、V字型回復を果たした中国。かつての『世界の工場』も、今や周囲の国も含め『巨大市場』となり、また『ハイテク製品を作る競争者』としても捉えるべき時が来た。先進国が世界の所得の半分以上稼ぐ時代が終わりつつある。世界経済の中心は、徐々にしかし確実にアジアに向かいつつある。世界経済の成長の半分は既に新興国によるもので、今後五年程度では八割を新興国が占めるという。アジア新興国の七〜八%の成長は一〇年で倍になる経済成長である。この流れをチャンスとして捉え、これを活かす産業構造の転換は不可欠である。地理的条件を考えても日本はとて有る利な位置にいる。新しいグローバル時代の到来である。日本の主要企業の収益回復もアジア地域が牽引している。当TACTグループもここらをつつかりと見定め、お客様の中国ビジネスへのバックアップ部門として二年後、中国事務所の新設を決定した。大いに活用いただきたいと思う。また環境ビジネスも日本の得意分野である。これら時代の潮流にしっかりと目を逸らすことなく、地に足をつけて、決して逃げることなく、一つ一つ積み上げ、あるべき姿で迅速にそして確実に対応をしてそのうえでこれをチャンスとして何よりも人一倍頑張っていたいただきたいと思う。考え方次第で前途は揚々たるものである。